

令和5年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
園芸部門

部会員が一体となりブランド化、高品質化を推進するスイートピー生産

○氏名又は名称 JA 愛知みなみスイートピー出荷連合（代表 小久保 禮次）

○所在地 愛知県田原市

○出品財 経営（スイートピー）

○受賞理由

・地域の概要

田原市は、愛知県の南端に位置し、令和3年の農業産出額は849億円で、市区町村別で全国第2位である。園芸品目の生産が盛んで、キャベツ等の露地野菜品目と輪ギクをはじめとする花きの占める割合が高いのが特徴である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

スイートピーの平均単価がバブル経済崩壊等により下落し、産地間競争が激化したことから、平成7年にJA 愛知みなみ（当時は、JA 愛知渥美町）の正式部会となり、収量ではなく品質を重視する方針の下、生産、販売の両面で改革を進め、全国平均単価が25～30円台で推移する中、平成18年に40円台に回復させ、令和3年には60円台に達するまでになった。

・受賞者の特色

（1）部会員が一体となり、高品質化を推進

高付加価値品種の導入や十分な日当たりを確保できる仕立て方や環境制御の工夫などにより高品質化を進めている。また、出荷に当たっては、輸送中に花が傷みにくい箱詰め法を開発するとともに、独自の厳しい出荷基準の下、出荷連合役員とJA職員によるダブルチェックを行っている。さらに、高品質化と省力化を両立させるため、農業資材の改良やスマート農業技術の導入も進めている。

（2）市場と協力した販売戦略

出荷先を高級花市場の創造に理解を示す取引先に絞り込むとともに、消費者にとっては日持ちが重要であるため、日持ち性を重視した等級を設定し、他産地にはない、小売店に対する品質保証も行っている。さらに、国産スイートピーは海外における評価も高いことから、令和元年からは、市場と連携し、東南アジアやアメリカへの輸出を行っている。

・普及性と今後の発展方向

近年の地球温暖化の影響を受けるようになってきているが、スマート農業技術の導入面積を増やし、引き続き高品質なスイートピーの生産に努めていく。現在、全11名の部会員であるが、後継者が5名となっていて、確実な技術と理念・信念の継承を行っていくとともに、新規参入希望者を積極的に取り入れていきたい。